

# 組合士さん こんにちは

訪ねた組合士

全日本鏡連合会  
東京都鏡商工業協同組合  
事務局長 東島 二郎さん

## 組合士なら “生涯現役” も可能です

### 東京都中央会の無料職業紹介事業を利用

今回、お話を伺った東島二郎さんは、昨年10月から東京都鏡商工業協同組合事務局長に就任されているが、このポストに就く前には、建設業協同組合、池袋西口商業協同組合の2つの組合の運営も経験しておられる。

最初の組合へは民間企業サラリーマンの立場で出向し、「せっかく組合業務を経験したのなら、その経験を試してみたい」と組合検定試験に挑戦、「やるからには勉強しました」という甲斐あって組合士資格を取得された。その後、サラリーマン退職と同時に組合士登録を申請、前職である池袋西口商業協同組合事務局長として組合員数11と小振りながら、組合ビルを保有してその賃貸収入を得るなど資産の豊かな組合の運営に従事された。「事務局長として職員規程を完備したのですが、そこで定年を63歳と規定した。自分で決めたことなので、その歳を迎えた昨年6月に退職したのです」。延長規定もあるのだから残ろうと思えば残れた

が、まず隗より始めよと東島さんは退職した。その際、理事長より「後任を見つけてきて欲しい」との依頼を受けた。そこで利用したのが東京都中央会の無料職業紹介事業だった。

この事業は、平成18年4月から東京都中央会が組合士など組合運営に長年携わってきた「組合運営のプロ」たちを定年だからと現役引退させるのはもったいなさからと現役引退させていたものである。いとの考えから開始していたものである。もともと東京都中央会など関連団体・機関と「密接にお付き合いするよう心がけていた」という東島さんは、さっそく都中央会の担当課長の下へ赴き、自分の後任紹介を依頼するとともに、自分自身の紹介先探しも依頼したのである。

すると、退職から3ヵ月後の同年9月には、現在の奉職先である東京都鏡商工業協同組合を紹介され、面接等を経て就職、現在に至ることになったのである。「同じ時期にハローワークも利用したのですが、年齢がネックとなつて思うような紹介がなかった。ところが、無料職業紹介事業だと組合に特化した紹介を受け

られるので、とてもマッチングがスムーズだと思いました」とは、このマッチング事業の成立案件第1号となった東島さんの感想である。

### 培ったスキルで確実な運営

複数組合の運営を経験したことについて東島さんは、「業種が異なれば、当然その業界の個性や違いもあります。しかし、組合事務、組合運営はどこでも同じです。業種の違いはありません。また、組合員の皆さんや関連する役所とのお付き合いも、コミュニケーションをとるという意味では基本的にはどこも同じです」と感想を述べられる。

例えば、東京都鏡商工業組合は組合員数33という規模であるが、同じく東島さんが事務局長を務める全国団体の全日本鏡連合会であれば100を超す規模になる。さらに、鏡もその製品の1つであるガラス業界全体となると、板硝子協会という団体があり、国内メーカー3社のほか、工事や卸などガラスに関連する業種が勢揃いする団体もあり、そこで年に一

度開催される板硝子フォーラムなどへの対応を求められる。

それらは「今までにない経験」として柔軟に受け入れながら、「組合運営の基本を理解していれば、どの組合であろうと仕事は安定して遂行できる」と東島さんは自然に言うが、それは、組合士としての専門性と長年の経験に裏打ちされた能力、スキルがあればこそその言葉だろう。

### 組合に新風を吹き込むきっかけに

東島さんは組合士という資格について「なければなくても何とかあります。けれど、確実に組合運営についての知識は蓄えられるし、それは組合専従者の血となり肉となるものです」と捉えている。

「ただし、残念ながら、組合役員の皆さんにはまだまだ組合士という資格、存在が認知されていないとも実感しています」と、せっかくの人材が必ずしも十分に活用されていない現実も指摘する。

このような状況の中で東島さんは「無料職業紹介事業は、組合士を中心に、組合で働きたい人材と、組合運営について高い能力をもった人材を求める組合とがうまく出会えるきっかけになります。また、こういう仕組みを広く知らせていく中で、組合士の認知度も高まっていくのではないかと期待を寄せる。確かにこのような仕組みは組合の職員流動性を生み出し、組合が変わるきっかけになるかも知れない。そして、その中で組合士は「生涯現役」を可能にする資格になるかも知れない。